

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870201153		
法人名	株式会社 シルバーケアサービス		
事業所名	グループホーム ひまわりの家		
所在地	今治市古谷甲19番1		(電話) 0898-56-1616
管理者	桧垣 和恵		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 13 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	2 名
年齢	平均 81.6 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家屋が点在する田園地帯に開設されたホームである。ホームは木材を多く使用した造りで、明るくゆったりしており、床暖房、広い中庭、露天風呂などが設置され温かい雰囲気がある。職員は、ホームの畑で採れた野菜を使った美味しい食事を提供し、外出の機会を多くもつよう心がけている。また、運営法人が所有する他のホーム、小規模多機能型事業所、デイサービスと連携しながら運営している。地域の運動会や夏祭りに参加したり、地元の幼稚園児がやって来たり、中学生の体験学習を受け入れる等、地域との交流に努めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回の評価を踏まえ、地域との交流を心がけ、運営推進会議に幅広い立場のメンバーが参加できるよう努め、市担当者との連携を深め、介護計画を一人ひとりのケアや記録と関連づけ、災害対策の充実を図る等の改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
運営者、管理者、職員はそれぞれが評価の意義を理解し、職員の話し合いで自己評価をまとめあげている。職員は、自己評価が日々のケアの振り返りになると感じている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議ではホームの実情、行事、検討事項、地域への働きかけ等を報告し、参加者から質問や意見をいただいている。会議で出された意見や地域の情報をホームのサービス向上に活かしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の意見は来訪時、介護計画の説明時、家族会等で把握し、ホームの運営に反映している。苦情相談窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族に説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の運動会や夏祭りに参加したり、近隣の喫茶店へ出かけたり、地元の幼稚園児が遊びに来たり、中学生の体験学習を受け入れる等、地域との交流に努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひまわりの家

(ユニット名) えがお

記入者(管理者)

氏名 桧垣 和恵

評価完了日 平成 20 年 10 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 玄関ロビーやフロアーに運営理念を掲げ家族や見学者などに分かりやすく、説明も行っている。	※	職員全員がホームの社会的役割を理解し業務に当たれるよう勉強会を継続する。
			(外部評価) 全職員が話し合っつくりあげた、わかりやすい理念である。理念をもとに、さらに各ユニットで目標をたて、共有し合っている。ただ、地域密着型サービスとしての理念の表現が十分とは言えない。	※	地域密着型サービスの意義や役割を反映した理念となるよう、検討を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は職員全員で作ったものであり、フロアーの目に届くところに掲げている。ミーティングで実戦に向けての取り組みの評価を話し合っている。	※	日々常に意識できるようにする。
			(外部評価) 管理者と職員は、理念をミーティングや申し送り時に確認し合っている。毎日の挨拶を笑顔で交わすよう心がけ、利用者の立場に立って心のこもった支援をする等、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月ホームでの出来事を載せた新聞を作り、家族に送付している。家族会やホームでの行事、地域への行事参加などにも取り組み、家族、地域との交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 毎日散歩に行き。隣近所の方と挨拶を交わしたり、気軽に声を掛け合っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の施設を利用したり、行事（運動会、夏祭り、他）に参加している。 (外部評価) 地域の運動会や夏祭りに参加したり、近隣の喫茶店へ出かけたり、地域の幼稚園児が遊びに来たり、中学生の体験学習を受入れる等、地域との交流に努めている。	※	地域活動への参加について運営推進会議等で話し合っ て検討する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で地域の方々が気軽に立ち寄っていただけるよう話し合いはしているが、具体的な取り組みはできていない。	※	運営推進会議を活用し、地域のお年寄り等の暮らしで役立つこと、ホームができることを見つけ取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で取り組んでいる。家族に評価結果を送付したり運営推進会議でも報告して意見を聞き、改善に向けたミーティングをもち取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を理解し、職員の話し合いで自己評価をまとめあげている。職員は自己評価がケアの見直しになると感じている。前回の評価後、地域との交流を心がけ、運営推進会議に幅広い立場のメンバーが参加できるよう努め、市担当者との連携を深め、介護計画を個々のケアと関連づけ、災害対策の充実を図る等の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ホームの取り組みや利用者の状況の報告、外部評価への取り組みを話し合い、ホームの運営に活かしている。 (外部評価) 会議ではホームの実情、行事、検討事項、地域への働きかけ等を報告し、参加者から質問や意見をいただいている。会議での意見や地域の情報をサービスの向上に活かしている。外部からの参加者がやや少なく、会議の内容が固定化する傾向にある。	※	会議には幅広い立場からの参加が必要であり、現在のメンバーだけでなく利用者、近所の方、婦人会、自主防災組織等の参加が望まれる。また、会議の内容についても、時にはメンバーにホーム行事に参加してもらったり、認知症についての学習会を開催する等、柔軟な会議運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ、市町村役場の方に相談や助言をいただいている。家族会や行事ごとを案内して交流の機会を確保している。 (外部評価) 市担当者に、権利擁護・成年後見制度・利用者のケア等について相談している。また、ホーム行事に市担当者の参加を呼びかける等、連携に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修会に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。必要な方には説明している。	※	職員全員が正しい知識をもてるよう、今後も研修会参加や勉強会を行っていく。また、家族も学べるよう機会を確保する。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修会に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。職員同士で見過ごすことがないように常に声を掛け合っている。	※	職員全員が正しい知識をもてるよう、今後も研修会参加や勉強会を行っていく。また、家族も学べるよう機会を確保する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は重要事項説明書や契約書に沿って丁寧に説明している。不安なことや不明なことに対しても分かりやすく説明するよう努力している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書にて相談窓口を明記し、ホーム内に掲示している。日頃より不安がないかコミュニケーションをしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に生活状況や健康状態など報告している。新聞にて職員異動は報告している。金銭管理についても定期的にも必要時に確認していただいている。 (外部評価) 家族の来訪時に利用者の状況や健康状態等を報告し、ホーム便りでも伝えている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度連絡している。職員の異動はホーム便りや掲示板で知らせている。預かった金銭は出納帳で管理し、家族の来訪時に出納帳や領収書を確認してもらっている。	※	職員の異動を家族の来訪時に紹介したり、出納帳を定期的に見せて領収書を渡してサインをもらう等、家族とホームの信頼・協力関係をより深めるためにも、より積極的な報告を期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口を重要事項説明書にて明記し、玄関には意見箱を設置している。 (外部評価) 家族等の意見は、来訪時や介護計画の説明時、家族会等で把握し、ホームの運営に反映している。苦情相談窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月2回の職員ミーティングで意見交換を行っている。月1回、リーダー会をもち、管理者、運営者を変え報告や意見交換を行っている。全職員の意見、提案が十分把握できているとは言い切れない。	※	全職員の思いや意見、提案が聞けるようミーティングで発言してもらったりアンケートを行う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 要望に対応できるよう、勤務調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者にとって一番良い環境を提供するために、異動を必要最小限にしている。職員が長期継続して働くことができるよう、職場環境の整備にも少し鶴取り組んでいる。 (外部評価) 運営者は職員の異動等を最小限にしたいと努力しているが、法人内の転属等もあり、異動・離職者は少ないとは言えない。職員が交代する場合は、各利用者の状況、接し方、ケアでの留意点等の実際的な支援について詳細に引き継ぐことで、利用者へのダメージを軽減するよう配慮している。	※	サービスの質確保の点から利用者や職員の馴染みの関係づくりが大切であり、法人内の転属も含めた職員の異動を最小限にすることが望まれる。また、交代時は利用者へのダメージを軽減するため、離職者と新採用者の重複勤務その他の工夫を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修へ積極的に参加させている。職場内でもミーティングで勉強会を行い、職員育成に取り組んでいる。 (外部評価) 運営者は、職員の育成には学習が大切と考え、外部研修への参加を推進している。外部研修会に参加した職員は、申し送りやミーティング時に他の職員に研修内容を伝えている。また、職員は日々の支援の中で、互いに介護技術や応対についての学び合いや工夫を重ね、「働きながら学ぶ」ことの実践に努めている。	※	職場内研修で外部講師を招いて勉強会を行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会などで同業者の職員と交流したり情報交換を行っている。 (外部評価) ホームはグループホーム連絡協議会に入会し、他ホームの職員と交流の機会をもち、研修会に参加したり、相互訪問を行っている。交流や研修での学びをサービスの質向上に活かしている。	※	相互評価を検討する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 社内親睦会や小旅行などを企画してストレス軽減に努めている。	※	職員の抱えるストレスの把握に努める。アンケートなどを実施する。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、開設当初より運営方針「柱」をもっている。日頃より個々の努力や実績、勤務状況、表情の把握をしている。時に、しかるること、求めることが多く、各自の向上心がついて行けていないこともある。	※	褒めること、しかるること、教育することを見極め、職員全員の持つ力が発揮できるようにする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) はっきりとした訴えが伝えにくい方にも寄り添い理解に努めている。安心が得られるよう配慮している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) お話する機会を積極的に設けて気持ちや思いをよく聞き、受けとめる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員で話し合ったり、関係者の意見を踏まえ必要性を検討して対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人の生活歴の把握に努め、無理なくなじめるよう雰囲気づくりに配慮している。必要に応じお試し利用も実施して、納得の得られるよう努めている。 (外部評価) 入居前の利用者にホームの生活や食事等を体験してもらい、雰囲気に馴染めるよう工夫している。入居後は利用者の好む音楽を流したり、好きなことを一緒にしたり、自宅に居るような居室づくりを心がける等、徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽をともにできる関係を築く努力をしている。できることできる支援を実施している。レクリエーションなどの遊びも楽しくみんなで行っている。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に体操、散歩、買い物、ドライブ、喫茶店への外出、畑の作物の収穫、食事づくり、掃除等を楽しみながら行い、また利用者から料理の下ごしらえ、盛り付け、掃除の仕方、洗濯物の干し方等を教わっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や旅行、行事など、共に過ごす時間を確保して、自然な形で一緒に介護に関わることで、気持ちの共有を図っている。何か変わったことがあれば小さなことでもその都度家族と話し合いをもつようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時など居室やフロアでお茶を飲んでいただきながら家庭的な雰囲気に配慮している。手紙やハガキを出す支援を実施している。	※	遠方の家族や面会の少ない家族への対応を検討する。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで馴染みの場所に行ってみることがある。 (花見、公園、他) 馴染みの人との関係を把握し、手紙やハガキを出す支援をしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係が良好に保てるよう配慮している。 レクリエーションを通して利用者同士関係が良好に保っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談援助など、継続的な関わりを必要とする方には適切な支援を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や思いを日常の関わりの中で知り、受けとめる努力をしている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望を、各利用者の表情、行動、会話等から把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントや入居後の関わりから、これまでの暮らしについて把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活状況の記録、申し送りやミーティングにより、職員全員が一人ひとりの入居者の状況を把握してケアができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の介護に対する意向を日々の関わりの中からも聞き出すようにしている。ミーティングで職員や関係者が意見交換して介護計画の作成をしている。 <hr/> (外部評価) 利用者や家族の意向・希望を把握した上で、職員で話し合っって介護計画を作成している。介護計画は利用者の個人記録と一緒に綴じ、日々のケアと関連づけている。介護計画は家族に説明し、サインを得ている。	※	可能な範囲でケアカンファレンスを行う。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じて見直しを実施している。また、ミーティングで変更の必要性を検討し、随時対応している。 <hr/> (外部評価) 月1回、介護計画の評価を行い、見直している。月2回のミーティングでも利用者の状況や計画をチェックし、必要時に見直している。利用者や家族の状況に変化が生じた場合はその都度見直すことにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録を具体的に記入している。ミーティングや申し送り、日誌によって情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の要望に可能な範囲で柔軟な対応を行っている。法人内のサービスを活用したり、職員間で協力している。 (外部評価) 利用者の急な受診、外泊、冠婚葬祭等、その時々々の要望に応じた柔軟な支援をしている。家族がホーム内での宿泊を希望した場合は、利用者の居室または別室での宿泊が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議で民生委員や役場の方にはご協力いただいている。地域の消防署の方には定期的に応急手当の講習会をしていただいている。地域の幼稚園児との交流会を行っている。	※	運営推進会議を活用し、本人の意向や必要性に対応する。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスを利用している方がいない。	※	本人の意向や必要性を把握し、地域の社会資源を積極的に活用していく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は、地域包括支援センターと協働してサポートしている方はいない。	※	本人の意向や必要性を把握し、地域包括支援センターとの連携を行い協働してサポートする体制をつくる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則、本人、家族の納得するかかりつけ医に継続して医療支援をしていただいている。 (外部評価) 利用者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族の同行を原則としているが、家族の同行が難しい時には職員が対応している。毎日体温、脈拍、血圧等をチェックし、健康管理に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医を中心に必要な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて専門医を紹介している。医師と連携して相談・助言を得ている。必要に応じて家族、職員の同行で受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置している。また、法人内看護師が常時相談にのってくれている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医師や家族との話し合いを行い、早期退院に向け調整している。入院先へ職員も出向き、利用者が安心して療養できるよう心がけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医師の意見を踏まえ職員間で話し合い、管理者、運営者との意見交換を行っている。家族へも早い段階で相談し、納得が得られるよう話し合いをもっている。 (外部評価) 重度化や終末期への対応は、ホームでできる範囲までは支援することとしており、利用者及び家族には早い時期から話している。看取りのマニュアルを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医の意見を確認し、家族と共に今後の方針を検討している。チームとしての支援にまでは取り組めていない。	※	利用者にとって何が一番いいかをよく検討しながら、事業所としての対応力を見極めサポートしていく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 入居者の自尊心を傷つけないようさりげない介護に努め、プライバシー保護にも気をつけている。 (外部評価) 衣類着脱時の羞恥心への配慮、食事の食べこぼしへのさりげない介助、小声でトイレ誘導を行う等、一人ひとりの誇りやプライバシーに留意した支援をしている。記録類は個人情報保護に努め、毎日記載する個人記録等はカーテンのある棚に、その他のものは事務室で保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場面を確保し、必要な支援に努めている。(服選びや活動内容) 本人の状態や能力にあった支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの生活リズムをもとに、起床、就寝、食事など一人ひとりのペースを尊重して支援している。 (外部評価) 基本的に午後としている入浴について、朝湯を希望する利用者には朝入浴できるよう支援し、ゆっくり食事する方をせかすことなく見守る等、一人ひとりのペースや希望を大切に支援に努めている。	※	中庭に小さな畑を作り野菜などを育てている。活用する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服選びは自己選択、自己決定の支援を行っている。理容、美容は行きつけのところへ家族と一緒にしている。本人や家族の要望により理容師に来てもらっている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 音楽をかけたり会話を楽しみながら食事をしている。一人ひとりの能力に応じて調理や片付けを一緒に行っている。食事が楽しみになるような会話を心がけている。 (外部評価) ホームの畑で採れた新鮮な野菜を使った、美味しい食事を提供している。利用者と職員と一緒に食事を作り、同じものを食べ、食器洗いや食器拭き等を行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の嗜好のものを家族が持ってきてくれる。食べたいモノの希望があれば一緒に作っている。お酒やたばこについては本人、家族と話し合ったうえで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) なるべくオムツを使用しないよう、排泄パターン、時間を把握してトイレへの誘導などを行い、自立支援を重視している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則、毎日入浴ができるよう支援している。時間帯は基本的にはホームの生活リズムをもとにしているが、希望があれば希望に添えるよう調整している。夏場のみ露天風呂を使用している。 (外部評価) 入浴は毎日午後からとしているが、朝湯に入りたい利用者の希望には可能な限り応えている。夏季には、希望すれば温泉を引いた露天風呂に入ることもできるようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間しっかり休まれるよう取り組んでいる。その時々状況に応じて自由に昼寝や休息をとれるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 洗濯物や掃除、調理などできることを支援することで、役割や生き甲斐を感じていただけるよう支援している。季節に応じた行事(初詣、花見、菊花展、運動会など)を行っている。 (外部評価) 体操、歌、習字、絵手紙、散歩、買い物、ドライブ、喫茶店でのお茶、畑の作物の収穫、花の水やり、メダカや金魚への餌やり、料理の下ごしらえ、食後の後片付け、掃除、洗濯干し等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の能力に応じて家族と話し合って対応している。 買い物など本人が使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 会話の中から希望を聞き出し、お出かけ支援をしている。月に数回喫茶店などに出かけている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、散歩したり、買い物やドライブで出かけたり、喫茶店でお茶やケーキをいただいたり、車で花見に行ったり、一泊旅行に参加する等、戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と一緒に墓参りや外食など自由に出かけられるよう支援している。小旅行を定期的に計画している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞い、絵手紙など本人の希望に応じて支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来ていただき安い雰囲気づくりに努めている。居室やフロアで自由にくつろいでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する研修会に参加して知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解ができケアに活かしている。	※	家族も一緒に身体拘束について学ぶ機会を確保したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会で学んだり事例勉強会をして弊害の理解に努めている。日頃から鍵はかけず開放している。 (外部評価) 運営者及び全ての職員は鍵をかけない意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 対面式キッチンになっており、常に利用者の状況の把握に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 刃物や危険物は目に触れないところに保管している。必要に応じて職員が注意しながら見守って使用している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書、ひやりはっと報告書を作成しており、ミーティングで話し合うことで再発防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回消防署の応急手当の講習を受講して訓練している。マニュアルを作成している。	※	職員全員が同じ意識で取り組めるようにしたい。継続的に研修会に参加する。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っており、非常時の連絡網も作成している。災害時の応援を近くの障害者施設に依頼しているが、地域住民の協力を得られる体制まではまだ確立していない。	※	避難訓練に備えて職員の役割分担などを確認しておく。 災害時の職員主体の誘導には限界があり、地域の実地的な協力が望まれる。運営推進会議や地域との交流等を通して自主防災組織や近隣住民の協力が得られるよう働きかけ、一緒に訓練を行う等取り組みを続けることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こりえるリスクについて家族と対応策を話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや一人ひとりの表情や声の調子、食欲、顔色などの変化で異変を感じ取るよう気をつけている。申し送りと日誌で伝えている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋により薬の種類や内容を把握している。薬の仕分けをはっきりわかるよう工夫している。	※	再三の確認作業を実施し間違いのないようにする職員全員が薬についての知識を理解する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分量は1日1500CC以上、食事は食物繊維を多く取り入れるようにしている。毎日、運動の機会を確保して、体操や散歩を行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア、歯磨き、うがいの支援を実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのよい食事、献立に工夫している。水分摂取量をチェックして、摂取量の少ない方へは、ゼリーや果物で対応している。 公的役場の専門員へ栄養バランスのチェックを依頼したが、断られた。 (外部評価) 食事の摂取量や水分量はその都度把握している。自力でゆっくり食べる利用者を温かく見守り、途中で食べなくなった方を小声で促す等、一人ひとりの状態や力量に応じた支援をしている。以前は実施していたが、今は栄養士による献立チェックを中断している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成している。インフルエンザは予防接種を受ける支援をしている。手洗い、うがい、消毒をこまめに実施するよう支援している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的に調理器具、冷蔵庫等の除菌、消毒、掃除を行っている。毎日新鮮な食材を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 気軽に立ち寄っていただけるようお花を植えたり標札をかけている。玄関先には椅子を設置し、憩いの場所としている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物やお花、飾り物によって生活感、季節感を取り入れている。庭に向かって大きな窓があり、自然光をたくさん取り入れることができる。 (外部評価) ホーム内は明るくゆったりしており、木材を多く使用した造りで温かい雰囲気がある。居間には絵画、大きめのテレビ、ピアノ、季節の花があり、利用者の写真や作品が飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。その他の共用空間も清潔感があり、気になる音や匂いもない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファと食卓、畳の部屋があり思い思いに過ごされている。庭にもベンチを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と話し合い、馴染みのある家具をもってきていただいている。寝具一式はホームのものである。 (外部評価) 使い慣れた小ダンス、テレビ、鏡、時計等を持ち込み、本人・家族の写真や作品を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を適度に行い、空気のだよみに気をつけている。空調設備、床暖房を備えているが、こまめな調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差を解消し、手すりを設置している。室内でも車椅子やシルバーカーを使用していただき、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレや居室入口には分かりやすく表記している。一人ひとりの能力に応じてタンスなどにも用途を表記している。環境について問題があればその都度話し合って対応している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭がとにかく広い。中庭で洗濯を干したり、日光浴をしたり、ベンチに腰掛けて夕涼みをしたり、活用している。お花畑や野菜畑もある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	本人からの話、家族の希望などを聞くように努め、日々コミュニケーションをとっている。ミーティングでアセスメントを見ながら職員間での話し合いのもと把握に努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	お茶の時間やおやつ時間、食後の時間などゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ホームの生活リズムをもとに、本人の体調や希望を尊重して支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員の声かけに対し笑顔が多く見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日の散歩やドライブ、家族との外出、外泊、外食も自由にされている方もいる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	定期的な受診や毎日のバイタルチェックにて安心して過ごせるよう支援している。異変時は家族に連絡し、看護職員や法人内看護師に相談し、適切な医療が受けられるよう対応している。定期的な健康診断もお願いしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	本人の希望や訴えを聞いて柔軟な対応に心がけている。不安が取り除かれるよう声かけに気をつけ、気分転換が図れるように支援している。ホームでの生活に慣れ馴染みの関係が築けている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族訪問時に要望などを聞く等コミュニケーションを図っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	馴染みの方や地域の施設の方が時々来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	継続的に運営推進会議を行うことで少しずつではあるが、関心、理解が深まってきているように思う。家族なども参加してくれるようになった。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔、挨拶を忘れず、生き活きと働いている。明るく楽しく過ごせるよう職員は努力している。職員同士の会話も生き活きしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から「ありがとう」などの感謝の言葉を聞くことができる。それぞれができることを役割としてされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族から感謝の言葉を聞くことができる。日々のコミュニケーションで家族とも色々なお話しをしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

平成14年9月にグループホームひまわりを開設し、同じ方針でグループホームひまわりの家を運営している。開設以来ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひまわりの家

(ユニット名) こころ

記入者(管理者)
氏名 桧垣 和恵

評価完了日 平成 20 年 10 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域に開かれたホームを目指し、運営理念と方針を作っている。運営推進会議を活用しながら、今後一層地域密着型サービスとしての運営に努めたいと考えている。	※	理念・方針を常に理解、共有してサービスが提供できるように話し合う機会を確保する。
			(外部評価) 全職員が話し合っつくりあげた、わかりやすい理念である。理念をもとに、さらに各ユニットで目標をたて、共有し合っている。ただ、地域密着型サービスとしての理念の表現が十分とは言えない。	※	地域密着型サービスの意義や役割を反映した理念となるよう、検討を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) フロアーの中心に理念を掲げており、毎朝の申し送り時に全員で確認を行っている。理念は、定期的に職員全員で実践できているか確認している。		
			(外部評価) 管理者と職員は、理念をミーティングや申し送り時に確認し合っている。毎日の挨拶を笑顔で交わすよう心がけ、利用者の立場に立って心のこもった支援をする等、理念の実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を玄関ホールやフロアーの目に付くところに掲げており、家族や見学者に分かりやすくしている。見学や相談に来られたときに、事業所の方針や理念を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時の挨拶の掛け合い、施設への訪問を日常的に行っている。行事ごとのある時は、案内をしあっている。民生委員に独居の方の訪問や気軽な来所を依頼している。	※	独居の高齢者などとの交流を行いたい。(慰問、来所歓迎)
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事(お祭り、運動会、他)などに参加している。運営推進会議で情報交換を行っている。行事招待状を出している。 地理的に交通量の多い道を挟んで部落の住宅街と離れていることも原因である。 <hr/> (外部評価) 地域の運動会や夏祭りに参加したり、近隣の喫茶店へ出かけたり、地元の幼稚園児が遊びに来たり、中学生の体験学習を受入れる等、地域との交流に努めている。	※	地域の方々が気軽に立ち寄っていただけるよう、民生委員や役場の方々と対策を考える。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方々が気軽に立ち寄っていただけるよう、運営推進会議でも話し合っている。現状は、何にも取り組めていない。	※	地域の方々が気軽に立ち寄っていただけるよう、また、役立つことがないか運営推進会議を活用して話し合う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の結果についても運営者、管理者、職員全員で話し合って改善策を検討し取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 評価の意義を理解し、職員の話し合いで自己評価をまとめあげている。職員は自己評価がケアの見直しになると感じている。前回の評価後、地域との交流を心がけ、運営推進会議に幅広い立場のメンバーが参加できるよう努め、市担当者との連携を深め、介護計画を個々のケアと関連づけ、災害対策の充実を図る等の改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の生活状況やホームの取り組みなどを報告し、話し合って意見をいただいている。一つ一つ取り組み、サービスの向上に活かしている。2ヶ月に一回開催している。		
			(外部評価) 会議ではホームの実情、行事、検討事項、地域への働きかけ等を報告し、参加者から質問や意見をいただいている。会議での意見や地域の情報をサービスの向上に活かしている。外部からの参加者がやや少なく、会議の内容が固定化する傾向にある。	※	会議には幅広い立場からの参加が必要であり、現在のメンバーだけでなく利用者、近所の方、婦人会、自主防災組織等の参加が望まれる。また、会議の内容についても、時にはメンバーにホーム行事に参加してもらったり、認知症についての学習会を開催する等、柔軟な会議運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 家族会やホームの行事に参加していただけるよう声かけをしている。	※	積極的に交流して、色々な面でサポートしていただけるようつながりを大切にする。
			(外部評価) 市担当者に、権利擁護・成年後見制度・利用者のケア等について相談している。また、ホーム行事に市担当者の参加を呼びかける等、連携に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修会に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。必要な方には説明している。	※	職員全員が正しい知識をもてるよう、今後も研修会参加や勉強会を行っていく。また、家族も学べるよう機会を確保する。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修会に参加し、社内研修で報告、勉強会を行っている。職員同士で見過ごすことがないように常に声を掛け合っている。	※	職員全員が正しい知識をもてるよう、今後も研修会参加や勉強会を行っていく。また、家族も学べるよう機会を確保する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に十分な説明を行い納得してもらっている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に社内・外部相談窓口を明記している。ホーム内にも掲示している。日常的に、コミュニケーションを十分とるよう心がけ、不安なことや不満など聞き出すよう努めている。玄関には意見箱を設置している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月の新聞で暮らしの様子やホームの取組みを報告している。健康状態に異常がある場合はその都度家族に連絡している。定期的に金銭管理状況の確認をしてもっている。職員の異動の報告ができていない。	※	職員の写真、名前を掲示板に表示しているが、異動等の変更に対応していき。また、毎月の新聞等でお知らせを検討する。
			(外部評価) 家族の来訪時に利用者の状況や健康状態等を報告し、ホーム便りでも伝えている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度連絡している。職員の異動はホーム便りや掲示板で知らせている。預かった金銭は出納帳で管理し、家族の来訪時に出納帳や領収書を確認してもらっている。	※	職員の異動を家族の来訪時に紹介したり、出納帳を定期的に見せて領収書を渡してサインをもらう等、家族とホームの信頼・協力関係をより深めるためにも、より積極的な報告を期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に社内・外部相談窓口を明記している。ホーム内にも掲示している。日常的に、コミュニケーションを十分とるよう心がけ、不安なことや不満など聞き出すよう努めている。玄関には意見箱を設置しているが、あまり利用されていないためアンケートを実施している。	※	遠方の方や面会の少ない家族の意見や思いが十分把握できるように、継続的にアンケートなどに取り組みたい。
			(外部評価) 家族等の意見は、来訪時や介護計画の説明時、家族会等で把握し、ホームの運営に反映している。苦情相談窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月2回の職員ミーティングで意見交換を行っている。月1回、リーダー会をもち、管理者、運営者を交え報告や意見交換を行っている。常に管理者、運営者とよく話ができている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう、勤務調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者は利用者にとって快適な環境を第一に考えている。異動についても必要最小限とし、利用者に負担のないように努めている。労働環境も少しずつ整備され、働きやすく働きがいのある職場作りをと改善に努めている。 (外部評価) 運営者は職員の異動等を最小限にしたいと努力しているが、法人内の転属等もあり、異動・離職者は少ないとは言えない。職員が交代する場合は、各利用者の状況、接し方、ケアでの留意点等の実際的な支援について詳細に引き継ぐことで、利用者へのダメージを軽減するよう配慮している。	※	サービスの質確保の点から利用者や職員の馴染みの関係づくりが大切であり、法人内の転属も含めた職員の異動を最小限にすることが望まれる。また、交代時は利用者へのダメージを軽減するため、離職者と新採用者の重複勤務その他の工夫を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者は、外部研修への参加を積極的に取り入れ、職員の資質向上を図っている。外部研修に参加した者は、報告させ、社内での勉強会がもてている。 (外部評価) 運営者は、職員の育成には学習が大切と考え、外部研修への参加を推進している。外部研修会に参加した職員は、申し送りやミーティング時に他の職員に研修内容を伝えている。また、職員は日々の支援の中で、互いに介護技術や応対についての学び合いや工夫を重ね、「働きながら学ぶ」ことの実践に努めている。	※	法人内研修についても講師を依頼するなど充実させたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会などで同業者の職員と交流したり情報交換を行っている。 (外部評価) ホームはグループホーム連絡協議会に入会し、他ホームの職員と交流の機会をもち、研修会に参加したり、相互訪問を行っている。交流や研修での学びをサービスの質向上に活かしている。	※	相互訪問など取り組んでいきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 社内親睦会や小旅行などを企画してストレス軽減に努めている。	※	職員の抱えるストレスの把握に努める。アンケートなどを実施する。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、開設当初より運営方針「柱」をもっている。日頃より個々の努力や実績、勤務状況、表情の把握をしている。時に、しかること、求めることが多く、各自の向上心がついて行けていないこともある。	※	褒めること、しかること、教育することを見極め、職員全員の持つ力が発揮できるようにする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人と面接の時間を必要なだけ確保し、思いや希望を聞き受けとめる努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の思いや希望が把握できるよう、丁寧な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族のおかれた現状の適切な把握に努め、対応している。また、必要に応じ、法人内外の相談員、介護支援専門員、関係者に意見を求めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要に応じお試し利用を実施している。また、家族や関係者にも協力を得ながら、本人が安心してサービスを利用できるように配慮している。 (外部評価) 入居前の利用者にホームの生活や食事等を体験してもらい、雰囲気馴染めるよう工夫している。入居後は利用者の好む音楽を流したり、好きなことを一緒にしたり、自宅に居るような居室づくりを心がける等、徐々に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の生活歴の把握に努め、昔の話、歌、料理法などを教わったりしながら、できることができるよう支援している。感謝の気持ちを伝えることも大切にしている。掃除や食事作りを一緒に行っている。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に体操、散歩、買い物、ドライブ、喫茶店への外出、畑の作物の収穫、食事づくり、掃除等を楽しみながら行い、また利用者から料理の下ごしらえ、盛り付け、掃除の仕方、洗濯物の干し方等を教わっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や小旅行など一緒に過ごす時間を確保し、自然な形で家族に介護に関わっていただきながら、思いを共有できるよう努めている。	※	本人の思いをもっと叶えられるよう家族と共に向き合っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ホームが家族にとって来やすいような雰囲気づくりに努めている。様々な形で一緒に過ごす時間を確保したり、家族が現状に向き合うことのできるようにサポートを実施している。	※	面会の少ない家族には、病院受診等であるべく関わりを持てるようお願いしている。その他、より良い関係に向けた支援については検討が付きにくい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) アセスメント時や入居後も継続的に情報収集に努め、関係継続の支援を実施している。(絵手紙、年賀状など)ドライブナに出かけ馴染みの場所(スーパー、公園、他)にいつている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲のよい人同士で集まったり、一人でいるのが好きな方もいるが、自然な支え合いができ共同生活がスムーズにいくよう配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了した方の家族が、ボランティアに来てくれることもある。必要な相談、支援を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を把握し、本人の意向や希望に添うよう努めている。日常より思いや希望が聞き出せるようコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望を、各利用者の表情、行動、会話等から把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしが把握できるよう、書類関係を作り替えた。入居時のアセスメントに加え、継続的な情報収集に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活状況を記録し、申し送り、業務日誌にて把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティングで話し合いを行い、一人ひとりであった介護計画の作成に努めている。家族とは、面会時に話し合いをもち日頃より思いや希望の把握に努めている。日々の体調の変化、心身の変化観察に気をつけている。 <hr/> (外部評価) 利用者や家族の意向・希望を把握した上で、職員で話し合っ て介護計画を作成している。介護計画は利用者の個人記録と一緒に綴じ、日々のケアと関連づけている。介護計画は家族に説明し、サインを得ている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じた見直しを実施している。月2回のミーティングで状況を確認し、必要に応じ、介護計画の見直し、作成を実施している。 <hr/> (外部評価) 月1回、介護計画の評価を行い、見直している。月2回のミーティングでも利用者の状況や計画をチェックし、必要時に見直している。利用者や家族の状況に変化が生じた場合はその都度見直すことにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活状況を個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングで気づいたことを報告し共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の要望に可能な範囲で柔軟な対応を行っている。法人内のサービスを活用したり、職員間で協力している。 (外部評価) 利用者の急な受診、外泊、冠婚葬祭等、その時々々の要望に応じた柔軟な支援をしている。家族がホーム内での宿泊を希望した場合は、利用者の居室または別室での宿泊が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議で民生委員や役場の方にはご協力いただいている。地域の消防署の方には定期的に応急手当の講習会をしていただいている。地域の幼稚園児との交流会を行っている。	※	運営推進会議を活用し、本人の意向や必要性に対応する。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスを利用している方がいない。	※	本人の意向や必要性を把握し、地域の社会資源を積極的に活用していく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は、地域包括支援センターと協働してサポートしている方はいない。	※	本人の意向や必要性を把握し、地域包括支援センターとの連携を行い協働してサポートする体制をつくる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 原則、本人、家族の納得するかかりつけ医に継続して医療支援をしていただいている。 (外部評価) 利用者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族の同行を原則としているが、家族の同行が難しい時には職員が対応している。毎日体温、脈拍、血圧等をチェックし、健康管理に努めている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医を中心に必要な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて専門医を紹介している。医師と連携して相談・助言を得ている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置している。また、法人内看護師が常時相談にのってくれている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医師や家族との話し合いを行い、早期退院に向け調整している。入院先へ職員も出向き、利用者が安心して療養できるよう心がけている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医師の意見を踏まえ職員間で話し合い、管理者、運営者との意見交換を行っている。家族へも早い段階で相談し、納得が得られるよう話し合いをもっている。 (外部評価) 重度化や終末期への対応は、ホームでできる範囲までは支援することとしており、利用者及び家族には早い時期から話している。看取りのマニュアルを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医の意見を確認し、家族と共に今後の方針を検討している。チームとしての支援にまでは取り組めていない。	※	利用者にとって何が一番いいかをよく検討しながら、事業所としての対応力を見極めサポートしていく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 入居者の自尊心を傷つけないようさりげない介護に努め、プライバシー保護にも気をつけている。 (外部評価) 衣類着脱時の羞恥心への配慮、食事の食べこぼしへのさりげない介助、小声でトイレ誘導を行う等、一人ひとりの誇りやプライバシーに留意した支援をしている。記録類は個人情報保護に努め、毎日記載する個人記録等はカーテンのある棚に、その他のものは事務室で保管している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己選択、自己決定の場面を確保し、必要な支援に努めている。(服選びや活動内容)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームの生活リズムをもとに、起床、就寝、食事など一人ひとりのペースを尊重して支援している。 (外部評価) 基本的に午後としている入浴について、朝湯を希望する利用者には朝入浴できるよう支援し、ゆっくり食事する方をせかすことなく見守る等、一人ひとりのペースや希望を大切に支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服選びは自己選択、自己決定の支援を行っている。理容、美容は行きつけのところへ家族と一緒にしている。場合により美容師の方に来ていただきホームでカットしていただいている。	※	おしゃれをしてでかける機会を今後も確保する。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じて調理、配膳、片付けなどを一緒にしている。ほぼ全員の利用者が食事を楽しみにされ完食されている。 (外部評価) ホームの畑で採れた新鮮な野菜を使った、美味しい食事を提供している。利用者と職員と一緒に食事を作り、同じものを食べ、食器洗いや食器拭き等を行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 好みの飲み物を提供できるよう準備している。会話の中で食べたいモノなどを話し合い、一緒に作っている。現在、お酒、たばこについて希望する方はいないが、希望者がいれば状況に応じて支援する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 基本的にトイレでの排泄ができるよう支援している。布パンツで生活ができるよう支援し、必要に応じてパット等で対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 原則、毎日入浴ができるよう支援している。時間帯は基本的にはホームの生活リズムをもとにしているが、希望があれば希望に添えるよう調整している。 (外部評価) 入浴は毎日午後からとしているが、朝湯に入りたい利用者の希望には可能な限り応えている。夏季には、希望すれば温泉を引いた露天風呂に入ることもできるようにしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間しっかり休まれるよう取り組んでいる。その時々状況に応じて自由に昼寝や休息をとれるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) アセスメントや継続的な情報収集により生活歴を把握し、一人ひとりのできることに着目しながら役割をみつけだし、楽しんだり気晴らしができるよう支援している。 (外部評価) 体操、歌、習字、絵手紙、散歩、買い物、ドライブ、喫茶店でのお茶、畑の作物の収穫、花の水やり、メダカや金魚への餌やり、料理の下ごしらえ、食後の後片付け、掃除、洗濯干し等、一人ひとりの楽しみごとや役割を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の能力に応じて家族と話し合っ対応している。管理のできる人は自分で管理している。買い物などが使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 会話の中から希望を聞き出し、お出かけ支援をしている。毎日の散歩は日課となっている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、散歩したり、買い物やドライブで出かけたり、喫茶店でお茶やケーキをいただいたり、車で花見に行ったり、一泊旅行に参加する等、戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と一緒に墓参りや外出など自由に出かけられるよう支援している。	※	もっと本人や家族の要望を聞き、支援していく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状や暑中見舞い、絵手紙など本人の希望に応じて支援している。遠方の家族からは定期定期に電話連絡をしてもらっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来ていただき安い雰囲気づくりに努めている。家族がよく足を運んでくださる。	※	知人や友人の訪問が少ないため、本人や家族らと相談を継続していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する研修会に参加して知識を得ている。また、ミーティングで報告勉強会を行い、正しい理解ができケアに活かしている。	※	家族も一緒に身体拘束について学ぶ機会を確保したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会で学んだり事例勉強会をして弊害の理解に努めている。日頃から鍵はかけず開放している。 (外部評価) 運営者及び全ての職員は鍵をかけない意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 対面式キッチンになっており、常に利用者の状況の把握に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 刃物や危険物は目に触れないところに保管している。必要に応じて職員の管理の下使用している。	※	利用者一人ひとりの状況を家族と相談しながら、危険を防げるよう対応していく。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書、ひやりはっと報告書を作成しており、ミーティングで話し合うことで再発防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回消防署の応急手当の講習を受講して訓練している。マニュアルを作成している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回の防災訓練を行っており、非常時の連絡網も作成している。災害時の応援を近くの障害者施設に依頼しているが、地域住民の協力を得られる体制まではまだ確立していない。	※	災害時の職員主体の誘導には限界があり、地域の実地的な協力が望まれる。運営推進会議や地域との交流等を通して自主防災組織や近隣住民の協力が得られるよう働きかけ、一緒に訓練を行う等取り組みを続けることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こりえるリスクについて家族と対応策を話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや一人ひとりの表情や声の調子、食欲、顔色などの変化で異変を感じ取るよう気をつけている。申し送りや日誌で伝えている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋により薬の種類や内容を把握している。薬の仕分けをはっきりわかるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分量は1日1500CC以上、食事は食物繊維を多く取り入れるようにしている。毎日、運動の機会を確保して、体操や散歩を行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア、歯磨き、うがいの支援を実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのよい食事、献立に工夫している。水分摂取量をチェックして、摂取量の少ない方へは、ゼリーや果物で対応している。 公的役場の専門員へ栄養バランスのチェックを依頼したが、断られた。 (外部評価) 食事の摂取量や水分量はその都度把握している。自力でゆっくり食べる利用者を温かく見守り、途中で食べなくなった方を小声で促す等、一人ひとりの状態や力量に応じた支援をしている。以前は実施していたが、今は栄養士による献立チェックを中断している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成している。インフルエンザは予防接種を受ける支援をしている。手洗い、うがい、消毒をこまめに実施するよう支援している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的に調理器具、冷蔵庫等の除菌、消毒、掃除を行っている。毎日新鮮な食材を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 気軽に立ち寄っていただけるようお花を植えたり標札をかけている。玄関先には椅子を設置し、憩いの場所としている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物やお花、飾り物によって生活感、季節感を取り入れている。庭に向かって大きな窓があり、自然光をたくさん取り入れることができる。季節に応じた飾り物（貼り絵、暖簾など）を作成して飾っている。 (外部評価) ホーム内は明るくゆったりしており、木材を多く使用した造りで温かい雰囲気がある。居間には絵画、大きめのテレビ、ピアノ、季節の花があり、利用者の写真や作品が飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。その他の共用空間も清潔感があり、気になる音や匂いもない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファと食卓、畳の部屋があり思い思いに過ごされている。庭にもベンチを設置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 寝具一式はホームのものであるが、家族と話し合い、馴染みのある家具をもってきていただいている。 (外部評価) 使い慣れた小ダンス、テレビ、鏡、時計等を持ち込み、本人・家族の写真や作品を飾り、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を適度に行い、空気のよどみに気をつけている。空調設備、床暖房を備えているが、こまめな調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差を解消し、手すりを設置している。室内でも車椅子やシルバーカーを使用していただき、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレや居室入口には分かりやすく表記している。一人ひとりの能力に応じてダンスなどにも用途を表記している。声かけ、ケアを統一している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 広い庭で花を育てたり、水やりや草抜きを一緒に実施している。散歩や体操、バーベQ、夕涼みなど活用している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	なるべく本人の意思を取り入れているが、共同生活のため合わせていただいている部分もある。また、極力身体を動かしていただけるよう支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある ④ ほとんどない	食事やお茶の時間などゆっくり会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	1日の流れは決まってしまうが、その中でご自分のペースで過ごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	個人にあった声かけ介助に努めている。笑顔で答えてくれることが多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	行きたいところの多くは「家」自宅であり、家族の協力を得て支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	毎日のバイタルチェック、薬の管理等、職員間で常に情報を共有している。家族や病院の主治医とも連携がとれている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	常に不安を抱えている人に対しては特に同じケア、声かけを心がけているが、十分に対応し切れていないことがある。気分転換になることを個々に提供している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族会や面会時などを利用して、なるべく話す時間ももち情報の交換を行っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) ③ たまに ④ ほとんどない	家族は頻繁に面会に来てくれている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事等への参加ができている。継続して運営推進会議を開くことで、少しずつホームに対する関心、理解が深まっているように感じる。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事会を計画して親睦したり、一人ひとりが秩序を守ることで良い関係が気付けてチームケアの大切さをそれぞれが理解して働いている。休まずに出勤できている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔で過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	行事などにも積極的に参加してくださったり、日頃からホームへよく足を運んでいただけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

平成14年9月にグループホームひまわりを開設し、同じ方針でグループホームひまわりの家を運営している。開設以来ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。